

令和2年4月28日

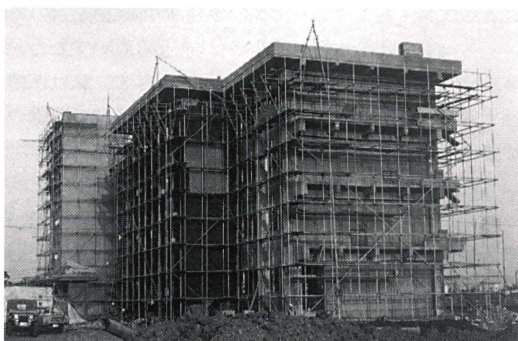
創立記念日に寄せて

5月1日は、本校の48回目となる創立記念日です。

ともに『藤朋』と名付けられた30周年記念誌、40周年記念誌を繙くと、本校は1973（昭和48）年に、「県南地域の開発と人口増加にともない、現在地に開校した」旨の記述があります。当時開設準備委員で、後に第3代校長となる小川浩三先生の「草創期の熱気」という手記には、「昭和48年4月7日の第1回の入学式、4月とは言え、氷雨まじりの朝、校舎は本館のみで足場も悪く3階廊下での入学式、まさに試練の出発式でした。」とあり、新しい学校開設に伴う厳しくも熱い思いがひしひしと伝わってきます。下に、この時の入学式の風景を載せましたが、この記述どおり、廊下での新入生代表宣誓となっているようです。ちなみに、例年入学式・卒業式で使用する体育館や藤朋館が完成するのは、この2年後、1975（昭和50）年のことになります。

さて、本校は2年後の2022年に創立50年の節目を迎えます。創立以来、地域に信頼される学校としてその歴史を重ね、同窓生も一万余名を数え様々な分野で活躍をしています。

臨時休業が5月31日まで延びました。この機会に、創立記念日の意義を再考し、これまで先輩方が様々な分野で築いてこられた実績に思いを馳せ、来たるべき50周年に向け、これまで以上に地域に信頼される学校としてどうあるべきか、そういったことについても考えてみてください。



工事中の本館



第1回生の入学式（3階廊下）

（30周年記念誌 『藤朋』より）